
花一輪の手向け

山羊ノ宮

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

花一輪の手向け

【Nコード】

N3519M

【作者名】

山羊ノ宮

【あらすじ】

佇む彼がそこにいた。

雨の中、傘も差さずじっとその場にいた。
振り返る者もない。

佇む彼がそこにいた。

雨の中、傘も差さずじつとその場にいた。
振り返る者もない。

あつ、またあれだなと私は感付いた。

「どうしたの？」

私は彼を傘の中に招き入れ、問いかける。

彼はキョトンとした目で私を見つめるだけ。

何も返事は返つては来ない。

私も返事を期待していた訳では無かったので、特に気に病む事も無かった。

それから私が微笑むと、彼もぎこちなく笑んだ。

辺りを見回し、そのあたりに生えている雑草の花を見つけた。

私は無造作にその花を手折ると、彼の足元に供える。

そして、膝を折りたたみ、手を合わせた。

目をつむり、彼の安寧を祈った。

次に目を開くと彼の姿はもう何処にもない。

「花一輪で成仏か。それならもっと早くに見つけてあげられたら良かったのにね。でも、誰にも気づかれない時間が長くあったから花一輪でも十分だったのかしら？」

私は何も無い空に話しかける。

そして、何も無い空から返事が返る。

『私には何とも。それよりも姫。そう易々と誰彼なしに話しかけるのはおやめくださいとあれほど。人間に善人と悪人がいる様に幽鬼にも善悪があるのです。先程の様な行動は危険・・・』

「そのために貴方がいるのですでしょ？」

『そうではあります』

「なら何の問題もないでしょ？」

『四条家に憑いてより幾年、貴方様ほどのお転婆は初めてでございます』

「あら、主人に向かってその口のききようは無いんじゃない？」

『これは失礼。つい本音が』

まあ、いいわと私は言って歩き出す。

四条は死浄、幽鬼の類とは縁が深い。

見えるのはよくあることだ。

とは言え、この長雨。

幽鬼が出やすいのは何故だろう？

傘の花の中に映っている鬱々とした表情。

あれが誘い水となっているのだろうか？

そんな風に私には思えてならない。

空を見れば、まだ曇天。

雨は続きそうだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3519m/>

花一輪の手向け

2010年10月10日14時46分発行